

令和6年度 デジタル田園都市 国家構想交付金 実績報告

(R7.8.8行政経営評価委員会)



交付金の概要



事業の概要



令和6年度 of 取組



KPIの目標と実績



今後の展開

健康スポーツ部スポーツ推進課

「スポーツクライミングの まち龍ヶ崎」推進事業



スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



交付金の概要



事業の概要



令和6年度の取組



KPIの目標と実績



今後の展開

スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



デジタル田園都市国家構想交付金

各地方公共団体による自主的・主体的な取組について、分野横断的な支援により強力に後押しすることを目的とした国の交付金

デジタル実装タイプ

地方創生推進タイプ

地方創生拠点整備タイプ



本事業で活用しているタイプ
(最長3年間の単年度採択)

※ 採択基準、交付上限額、補助率、事業計画期間などを見直し、現在は「新しい地方経済・生活環境創生交付金」の第2世代交付金に位置づけられている。

- ・ 目指す将来像及び課題の設定等、自立性、デジタル社会の形成への寄与、官民協働、地域間連携、政策施策間連携等の要素を有する事業
- ・ 具体的なKPI（重要業績評価指標）を設定し、PDCAサイクルを整備することが必要であり、事業年度毎に効果検証を実施
- ・ 地域再生法に基づく法律補助の交付金であり、内閣総理大臣から認定を受けた地域再生計画に記載された事業



交付金の概要



事業の概要



令和6年度の取組



KPIの目標と実績



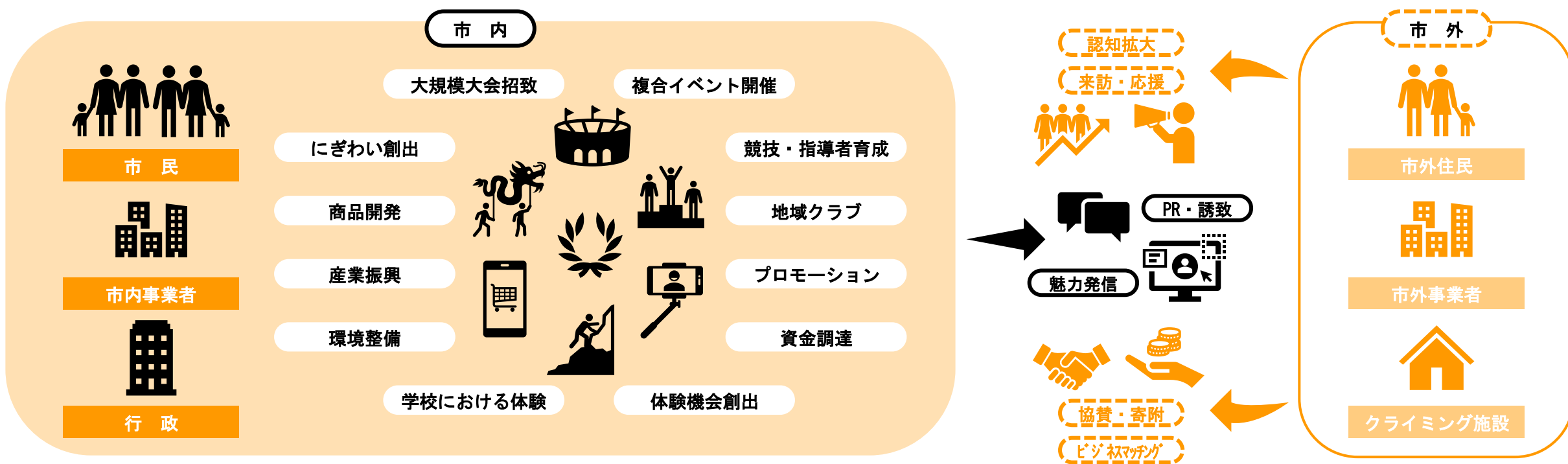
今後の展開

スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



スポーツクライミングのまち龍ヶ崎

若者の「転出抑制」や「定住促進」が全国的に喫緊の課題とされている中、本市においては、日本クライミング界の先駆者である野口さんや日本クライミング界を牽引する第一人者のひとりである檜崎選手という、本市ならではの恵まれた人的資源に着目し、「スポーツクライミング」を、「撞舞」や「龍ヶ崎コロッケ」と並ぶ、まちづくりのコンテンツの一つとして捉え、地域の活性化につなげることを目指す。





交付金の概要



事業の概要



令和6年度の取組



KPIの目標と実績



今後の展開

スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



基本構想策定審議会の設置・運営

スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会条例を令和6年6月定例会に上程して、基本構想の調査審議をする審議会を設置。

学識経験者3名

地域関係団体代表など5名

スポーツライミングの知見を有する方2名

公募の市民2名

計12名で組織

第1回

基本構想の将来像・ビジョン

【主な意見】

- ・いつまでに何をするのかを明確にする必要があり、推進主体、組織づくりが重要である。
- ・まずはハードを整えてソフトは柔軟に対応していくのがいいのではないか（ハードの公設は難しい。）。
- ・大会やイベント等との連携や他分野とのコラボなどによる市民への意識づけが必要ではないか。

第2回

個別アクション・ロードマップ

【主な意見】

- ・トップアスリートや地域おこし協力隊などの外部の力を活用するのはどうか。
- ・シンボリックな印象を持つ大規模大会の実施は、産業振興にもつながると考える。
- ・若者から高齢者まで、幅広い世代がスポーツライミングに触れることができる状態にするのが良い。

第3回

基本構想全体版(案)

【主な意見】

- ・恒常的にぎわいを生み出す長期の視点でのアプローチ、普及振興がどれだけ広がるかが重要である。
- ・地域住民が大会に参画(みる、する、支える)する工夫をする必要がある。
- ・これまで知らなかった人にも興味を持ってもらえるような施策を考える必要がある。

第4回

諮問に対する答申

慎重審議の結果、概ね妥当なものと認められた。

【付帯意見】

- ・多様な主体と連携し、より多くの市民等が自発的に参加しながら実行することが必要不可欠である。
- ・オリンピックとの連携、市民や企業等の意見が反映される環境づくりに努めて、事業を推進されたい。
- ・将来にわたる財政負担を伴う施設整備を行う場合には、市民との合意形成を十分図ること。
- ・環境の変化や時代の潮流に即時に対応するため、定期的に事業の見直しを図ること。



ワークショップ、アンケート、3C調査・分析

ワークショップ 有識者や関係者、庁内関連課職員を集め、スポーツクライミングの推進を通じてどのような「まち」を目指すのか、などについて意見交換を実施。

教育・学習

学校における部活など

クライミング体操の普及

小中学生手作りウォール作成

市民が集まるイベントで体験会

産業振興

コロケ型のホールド作成

ホールドのキーホルダー販売

まいりゅうのチョークボール

「壁を越える」受験お守り作成

プロモーション

壁にボルダリングアート

スポーツクライミング推進PV

コミュニティバスのラッピング

クライミング友好・姉妹都市

にぎわい創出

競技大会・メガイイベント誘致

市民が出場できる大会

誰もが楽しめる大会づくり

クライミングフェス開催

競技者支援

強化選手の合宿地誘致

海外遠征費用のサポート

クライマーの雇用支援

ルートセッターの育成

環境整備

学校体育館へのウォール設置

クライミング移住者向けの支援

民間と連携した施設の活用

インストラクターの派遣

アンケート

2024. 12. 4-12. 22の期間にアンケートを実施し、1, 105人(市内在住者95%)の方々が回答。

Q1. スポーツクライミングの認知・体験

知っているが
体験したことがない

78%

Q2. スポーツクライミングの興味・関心

興味がある

77%

Q3. スポーツクライミングを知ったきっかけ

龍ヶ崎市出身選手の活躍
オリンピック

Q4. スポーツクライミングの印象

楽しそう・達成感が得られそう
トップ選手在住で親しみがある

Q5. アリーナのボルダリング施設の認知

知っている

68%

Q6. スポーツクライミングの体験の頻度

月に1回以上

11%

Q7. スポーツクライミングを体験しない理由

機会がない

Q8. 市の取組の認知・参画意欲

今後、取組に
関わってみたい

35%

Q9. スポーツクライミングの活用可能分野

こどもへの機会提供
龍ヶ崎市のブランディング

Q10. ご意見自由記述

オリンピックと連携した大会やイベント開催、
本市の独自性のPR、子どもたちに夢や目標を与え
る等の取組を継続することでまちの活性化に期待

3C調査・分析

3C(市場・競合・自市)調査を踏まえて、SWOT(強み・弱み・機会・脅威)分析を行い、注力すべきテーマを整理。

内部環境

強み

弱み

市場規模・人口・認知度の高まり

省スペースで楽しめ、エンタメ性も高い

周辺地域における注目の高まり

プロとしての収入確保が困難

ほかの地域において同取組を実施

野口さん、檜崎さんの存在

初級者が手軽に楽しめるウォールの存在

強みを生かし、機会を有効活用するテーマ

教育・学習 スポーツクライミングを学び・体験できる機会づくり

環境整備 スポーツクライミングの環境づくり

強みを生かし、ほかの地域と差別化を図り、環境変化に対応するテーマ

にぎわい創出 スポーツクライミングによる交流人口の呼び込み

プロモーション スポーツクライミングのまちに係る市内外の認知促進

次の担い手となる若い世代の転出超過

若者を誘引する場や観光コンテンツ不足

機会を有効活用し、弱みを強みに変えるテーマ

産業振興 スポーツクライミングと連携した地域産業の活性化

弱みを強みに近づける改善策を講じる必要があるテーマ

競技者支援 次世代トップクライマーの育成支援・体制構築



基本構想の策定(R7.3)

スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想

ビジョン

スポーツライミングが地域の魅力となり、誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ

スポーツライミングを通して生まれる多様なつながりや、市民参画によってシビックプライドや活力が醸成される好循環が生まれ、新たな地域の魅力として市の持続的な発展につなげていきます。

コンセプト

スポーツライミングのトップ選手の活躍が地域を元気にする

スポーツライミングのまちとして知られ、市外から人が訪れる

スポーツライミングの次世代への挑戦を支える環境がある

スポーツライミングに親しみを持っている

テーマ

アクション

教育・学習

学校連携・体験会開催

産業振興

地域の名物等との連携

プロモーション

市内外向けプロモーション

にぎわい創出

大会誘致・開催

競技者支援

アスリート支援

環境整備

環境整備・人材確保・資金調達

スポーツライミングのまち龍ヶ崎の推進に向け、基本構想のビジョン・コンセプト・テーマを軸に、各アクションの効果的な実施に取り組んでいく。



キックオフイベントの開催

「AKIYO'S DREAM with RYUGASAKI」をニューライフアリーナ龍ヶ崎で開催し、令和7年3月15・16日の2日間、小学3年生から中学3年生まで、他県のみならず外国からもエントリーがあり、222名が出場。



出場者の声

龍ヶ崎開催、観客の応援が嬉しかった。

大会の中で成長することができた。

自分に自信がついた大会になった。



アンケート

89%の方が大会に満足と回答

86%の方がまた参加したいと回答

74%の市民がこの取組に関わってみたいと回答

若者だけでなく中高年にも広めていきたい。

クライミングができる場やコンテンツが増えたら嬉しい。

龍ヶ崎ならではの魅力で可能性を大いに秘めていると思う。





交付金の概要



事業の概要



令和6年度の取組



KPIの目標と実績



今後の展開

スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



KPIの進捗状況

	事業開始前	令和6年度	令和7年度	令和8年度	採択期間後 目標値
※ 上段は国交付金を申請した際の目標値、下段は各年度の実績値					
KPI① 地域の人口・世帯数	75,156人	▲230人 (74,926人) ▲715人 (74,441人)	▲200人 (74,726人) -	▲150人 (74,576人) -	74,576人
KPI② スポーツイベントの参加者数	5,141人	+250人 (5,391人) +1,670人 (6,811人)	+500人 (5,891人) -	+750人 (6,641人) -	6,641人
KPI③ たつのこアリーナボルダリングウォール利用者数	2,862人	+500人 (3,362人) ▲283人 (2,579人)	+200人 (3,562人) -	+200人 (3,762人) -	3,762人
KPI④ 事業に参画する団体数	0団体	+10団体 (10団体) +15団体 (15団体)	+10団体 (20団体) -	+10団体 (30団体) -	30団体



KPI①の考察



この事業は、まちづくりの事業分野として国庫補助の採択を受けており、KPIの設定にあたっては、「地域の人口・世帯数」を総合的なアウトカムとして設定することが原則とされている。当市では、近年約300人ずつ常住人口が減少しており、この事業の評価指標として、その減少数を緩やかにすることを目標に設定した。しかしながら、令和6年度は事業開始年度ということもあり、転出抑制や定住人口の増加などに寄与するほどの段階には至っていないと考えられる。



KPI②の考察



スポーツ分野のコンテンツを活用したまちづくりに関する事業であることから、市で参加者数の把握が可能なスポーツイベントに参加した方の数をKPIとして設定した。なお、令和5年度と比較して参加者数が増えた主なスポーツイベントは、スポーツレクリエーションまつり、野球のイースタンリーグ、リレーマラソン大会であった。また、市との共催で初めて行ったAKIYO'S DREAM with RYUGASAKIに1,146名が参画したことは、このKPIの大幅な増加に寄与したといえる。



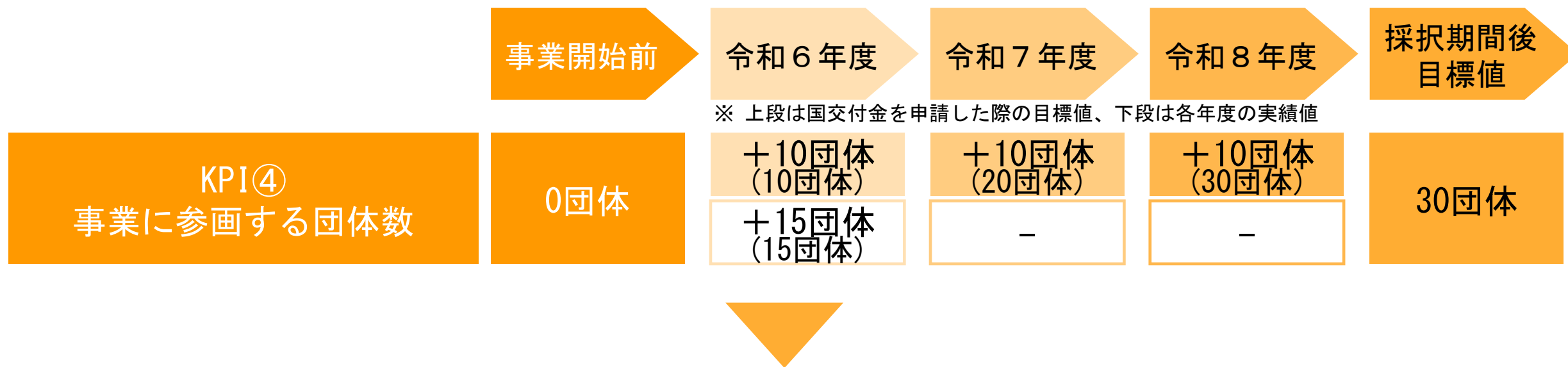
KPI③の考察



スポーツクライミングを基点としてまちづくりを推進する事業であることから、本市の総合運動公園の施設の一つである、たつのこアリーナに設置しているボルダリングウォールの利用者数をKPIとして設定した。令和5年度は、本市在住の檜崎選手がパリオリンピックに内定したこともあってか、一般利用の数が例年より多かった。令和6年度は、一般利用の数が例年並みであったことや基本構想策定段階で市民にこの事業が浸透していなかったため、減少に転じたと考えられる。



KPI④の考察



まちづくりを推進するにあたっては、多様な主体が関わり合いながら取り組んでいくことが重要であることから、地元団体や関連企業などが参画した数をKPIとして設定した。令和6年度は、基本構想策定審議会やワークショップ、キックオフイベントを通じて、多くの方に「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」に携わっていただいた。今後は、行政からのアプローチだけでなく、自発的にこの事業に関わる方、関わりたいと思う方を増やしていくことが必要である。



交付金の概要



事業の概要



令和6年度の取組



KPIの目標と実績



今後の展開

スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



基本構想におけるロードマップ



令和7年度【市内浸透段階】

- ・市内への普及に向けて、体験機会の増加や、象徴的な大会が実現されている。
- ・市内の関係者とも協力体制が構築されており、連携したプロモーションがなされている。
- ・各アクションについて実現性が精査され、アクションの実現に向けた計画が整理されている。
- ・環境整備に向けた要件の整理・誘致に向けた活動を検討している。

令和8年度【機運上昇段階】

- ・スポーツクライミングのまちとして、大規模大会が実施されており、多くの関係者がかかわる注カイベントとなっている。
- ・市内における認知度は高まっており、応援する機運が生まれている。
- ・市外のプロモーションにもスポーツクライミングが活用されている。
- ・スポーツクライミングをきっかけとした移住者が生まれている。

令和9年度以降【運用段階】

- ・全国から「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」として認知され、住民がスポーツクライミングに親しみや誇りを持ち、スポーツクライミングを活用した自発的な取組が広がっている。

テーマ

アクション

教育・学習

学校連携
体験会開催

学校連携協議・調整

体験会企画検討

体験会開催

一部連携

連携拡充

体験会の開催数・対象年代の拡大

にぎわい創出

大会誘致・開催

招致活動

招致活動

企画・開催

企画・開催

産業振興

地域の名物等との連携

大会と連携

大会と連携

大会と連携

連携・制度検討

連携・制度運用

プロモーション

市内外向けプロモーション

方針検討

コンテンツ作成・発信

コンテンツ作成・発信

競技者支援

アスリート支援

方針検討

制度運用

環境整備

環境整備
人材確保
資金調達

施設・拠点方針検討

検討結果に応じて実施

人材要件の検討・募集

採用

制度検討・企業版ふるさと納税確保

制度検討・企業版ふるさと納税確保



令和7年度に優先的に取り組む事業

官民連携調整会議



事業の全体方針を共有する会議体及び各事業の具体案を検討する分科会を設置・運営し、ステークホルダーと合意形成を図りながら、効果的な事業展開につなげるとともに、本事業への参画意欲を醸成する。

教育・学習事業



幅広い世代の方にスポーツライミングを体験してもらい関心を持つことにつなげ、学校における体験機会の導入や興味を持った方が定期的に体験できる施策について、ソフト・ハード両面での検討を行う。

プロモーション事業



スポーツライミングへの関心が低い層をターゲットに、「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の取組を知るきっかけとして、デジタル・アナログ両面のタッチポイントから認知度の向上につなげる。

にぎわい創出事業



令和6年度に実施したAKIYO'S DREAM with RYUGASAKIをベースとしたイベントを開催し、それに併せてプロモーション、体験会、特産物の提供などを行い、市内外に広くこの事業の取組をPRする。

環境整備・資金調達事業



本市に合った形の施設整備の在り方について、多角的な視点で実現可能性を踏まえた検討を行うとともに、事業の継続性や自走化に必要な資金調達手法の確立に向けた検討を行う。

事業の効果・評価

基本構想の策定やキックオフイベントの開催により、事業を推進していく上での指針を示すことができたこと、一部KPIの上昇につながったことは、一定の効果があったといえる。今後は、各アクションの事業を具体化・実施し、本事業が目指す姿や中長期的なKPIの達成に向けた取組が必要となる。



基本構想策定過程においていただいた意見や附属機関の意見を踏まえながら、本事業における取組が地域の魅力となり、誇りと活力あるまちへとつながるよう、一層の推進を図っていく。



交付金の概要



事業の概要



令和6年度の取組



KPIの目標と実績



今後の展開

報告は、

スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ
以上となります。